

鈴木日有先生 略年譜

大正九年（一九二〇）三月二十四日、青森県三戸町妙光寺長谷川順静の二男として誕生。戸籍名は順次郎。三歳の

時に母を喪い、一二歳で父を喪う。

昭和六年（一九三一）七月一六日、法叔父である弘前市法立寺唯真院日理の弟子となり得度。僧名は隨順。

同十二年（一九三七）四月六日、日蓮宗の度牒に妙光寺住職土岐隨迦徒弟長谷川順次郎二月一六日得度とある。

一八歳で上京し、谷中瑞林寺深見日円に隨身。

同十八年（一九四三）四月一日、北部十六部隊に応召。九月、立正大学予科を卒業。十二月二十九日に門司港を出帆し、スマトラ島・シンガポール島に従軍。

同二十一年（一九四六）六月二二日、田辺港に上陸復員後、立正大学に復学。

同二十二年（一九四七）成顕寺住職鈴木日導の徒弟となる。七月七日、大本山鷲山寺に入寺昇堂。同八日、僧籍登録。

同二十四年（一九四九）三月一日、立正大学文学部仏教学科を卒業。鈴木日導の室に入る。茨城県公立学校教員。

四月より常北中学校に勤務。

同二十五年（一九五〇）三月十日、師範学校中学校高等女学校教員免許状（修身）取得。高等学校教諭二級普通免許状（社会）取得。

同二十七年（一九五二）三月三十一日、中学校教諭一級普通免許状取得。

同三七年（一九六二） 二月一日、北茨城市成顕寺住職となる。九月二日、大本山鷲山寺執事補に就任。

同四三年（一九六八） 二月一日、大本山鷲山寺門末代議員に就任。

同四五年（一九七〇） 三月、北茨城市立学校を退職。この頃より、日弁大正師の足跡を巡り研究をはじめ。

同四六年（一九七二） 四月二五日、宗祖御生誕七百五十年を記念し、成顕寺本堂・客殿・庫裏の新築落慶式を奉修。

同四八年（一九七三） 四月一日、法華宗教学研究研究所研究員に就任。

同四九年（一九七四） 一月、北茨城市文化財調査委員に就任。一二月、民生委員児童委員に就任。

同五一年（一九七六） 九月、北茨城市文化財審議会委員長に就任。

同五二年（一九七七） 五月、法華宗千葉教区選出宗会議員に就任。

同 年 十月一日、大本山鷲山寺執事長に就任。

同五四年（一九七九） 七月二二日、北茨城市史編纂委員に就任。

同五五年（一九八〇） 九月九日、法華宗教学研究所員に就任。

同五六年（一九八一） 五月、宗会法務委員長に就任。一二月、民生委員児童委員を退任。

同五七年（一九八二） 一月七日、宗会議員を退任。

同 年 一月八日、教学部長に就任し、法華宗（本門流）責任役員となる。同時に教学審議会委員に就任。

同五八年（一九八三） 八月一日、宗宝・宗門史蹟審議会委員に就任。

平成二年（一九九〇） 一月七日、同委員を退任。

- 同 三年（一九九二） 五月三十一日、教学部長ならびに教学審議会委員を退任。
- 同 四年（一九九二） 三月、大本山鷲山寺執事長を退任。北茨城市文化財審議会委員長を退任。
- 同 年 四月一日、興隆学林専門学校校長に就任。九月二十八日、北茨城市文化財審議会委員に就任。
- 同 五年（一九九三） 四月一日、権大僧正に昇叙。
- 同 九年（一九九七） 三月、興隆学林専門学校校長を退任。九月一日、成顕寺住職を退任。
- 同 年 九月二日、大本山鷲山寺貫首に就任。大僧正に昇叙。
- 同 年 一月一三日、法華宗（本門流）第二百二十代管長に就任。
- 同 一三年（二〇〇二） 四月二七日、大本山鷲山寺貫首を病の為退任し、北茨城市成顕寺に隠居。
- 同 一五年（二〇〇三） 四月二五日、遷化。法寿八四歳。